

2025年度 始業式

○新年度が始まった

4月になりました、2025年度の新学期が始まります。東京では3月30日に桜の満開宣言が出されましたが、先週前半は真冬並みの寒さと雨が続き、桜の花はそのまま、新学期を迎えることができました。改めて、皆さん進級おめでとう。

先ほど新たに着任された先生方を紹介しました。

気分一新。新しい気持ちで新たな学年での学校生活を始めましょう。

○新年度の心構えとして

以前から校長講話でお話ししてきたように、これからの予測不可能な時代、正解のない時代をどう生きていくか。雑多な情報に満ち溢れ、情報過多の現代社会は、ビッグデータ、情報を活用しなければならないとされる時代ではあります。

また、生成 AI が様々な情報を集約して文章を作り上げてしまうことになり、自分の考えをまとめなくとも良い、あるいは思考停止の状況に陥ることにもなりかねません。「待てよ」と立ち止まって自分の考えや、思考していく前提条件や、解決策についての妥当性、正当性をきちんと考察していくことが必要です。

ですから今まで以上に、物事の本質を見極める目、思考、判断が求められます。そのためには、学問の本源に遡って、本校の創立の精神「諸学の基礎は哲学にあ」ることの意味を考えてほしいと思います。「なぜ、なぜ、なぜ！」を追究して、多角的な見方、捉え方のできる思考力ができるようにしてほしいと思います。これからの生きる指針としても大勢に流されることなく、「なぜ、なぜ？」の思考を重ねて行動してほしいと思います。

今の若者に限らず私たち自身が心がけなければならないことです。また、「今までやってきたから」「そのまま受け継ぐことが伝統だから」といった考え方ではなく、今までの固定的な常識や前例にとらわれず、自分たちにとって何が一番必要なことなのか、ねらいを明確にして、新たな方策・取り組みを考えてほしいと思います。「慣習」や「伝統」を受け継ぐことも大切なことですが、その伝統に新しい要素を加えること、あるいは大きく変革することも、私達に必要なことです。

「山縣有朋」「近衛文麿」などの評伝の著作のある政治学者の岡義武は、80年前の大戦の敗戦を踏まえて、戦前の学者の姿勢・態度を反省して

「われわれにとって何より危険なことは、安易なる楽観に心を委ねることである。危険は危険を知らざるときに最も危険である。最も大切なことは、かくて、事態をあるがままに正確に認識することである。真の希望と真の勇氣とは、現実のかかる冷徹なる凝視の中から、そして、その中のみ生まれ得る。」

真の希望と真の勇氣とは、自分の頭で、事態をあるがままに正確に認識して、現実を冷静に見つめることで生まれてくるものです。生成 AI などが出した安易な結論に任せることが最も危険であり、また、危険を危険と認識できないときほど危険であり、自分の思考を放棄する危機的な状況になりかねません。つまり、ざっくりとしたいい方になりますが、「自分の頭で考える」ということが大事です。

○これからの展望です

今まで話してきましたことを踏まえて、私たち東洋大学附属牛久中学校・高等学校では、これから体験的な活動を一層重視し、哲学教育を基礎に、「探究」と「ウェルビーイング」を柱として教育活動を展開していきます。哲学館・東洋大学の学祖円了先生は、「哲学は知りたいという気持ちであり、それを究めていくことが真理に至ることであり、哲学は結論ではなく出発点である」としました。円了先生の著書『純正哲学講義』の中で哲学から得られることは、

- ① 思想を精密にする ② 情操を高尚にする ③ 道理的想像力を進める（未来を予想する）
- ④ 志望を遠大にする ⑤ 精神を安定する としました。

この円了先生の考えを基にして、本校では、哲学教育を出発点に探究していく姿勢を育て、そのことを通じて、安定した精神から情操を高尚にして、創造力を高め、精密な思想を構築して未来を展望できる人材となってほしいと考えています。

○新入生を迎えるに当たって

明日は、中学・高校の入学式です。中学校63人、高等学校581人、合わせて644人の新入生を迎えることになります。明後日には対面式があります。そして約2000人になる生徒たちの新しい学校生活が始まります。